

観光福祉プロジェクト ～インクルージョン社会に向けて～

現在ボランティア協会では、異分野との連携（商工会、農業、林業、環境、観光など）に取り組んでいます。なかでも観光業界とコラボする「かみなり村観光福祉プロジェクト」は、福祉のまちづくりを進める上で欠かすことのできない計画であり、福祉施設としてある（障がいがあるなしにかかわらず支援を必要とする子ども、若者、貧困家庭など）かみなり村を観光資源のひとつとしてとらえ、広くアピールすることで、人々の福祉への関心を高めようという構想です。かみなり村には、廃車を改造して設けた足湯バス、イギリスの街を連想させるロンドンバス、鉄道ファンもうなる気動車キハ605、レトロバイク、タイの3輪車トゥクトゥク（近々納車予定）・・・といった乗り物があちこちにあり、乗り物巡りができるほど。人々の目を楽しませています。見学の合間には、ピザ窯のあるハワイアンカフェでランチやティータイム、アイガモ小屋での餌やり、ハワイアン雑貨やアクセサリーが並ぶショップで買い物なども楽しむことができ、時には畑で収穫したばかりの野菜が並ぶことも。お店には普段から近所の方々も出入りし、地域交流の場所にもなっています。さらには、かみなり村には複数の施設や事業所が集中し、子どもから大人まで切れ目のない支援を実現するための様々な取り組みを行っています。これは先述のコロニーとは異なり、障がいがあっても住み慣れた場所、家族の居る場所で暮らしたいという想いに寄り添い、支援活動を続けてきた結果、地域の支援体制がつけられ、地域生活支援拠点としての機能をも備えることができたということです。地域に溶け込む福祉施設「かみなり村」の存在を知り、その様相を体感することで、人々の障がいへの気づきや理解を深め、福祉のまちづくりを目指すきっかけになればと思っています。

これからも福祉の拠点として、また羽島の観光スポットとして存在し得るよう、地域の人々の協力を得ながら取り組んでいきます。ユニークでユーモラスな施設運営とおもてなしの心に誘われて、多くの人が訪れてくれることを期待しています。

※aloha(アロハ)・・・ハワイ語で「こんにちは」の意味ですが、ようこそ、さようなら、ありがとうなどの挨拶全般と「愛」、「思いやり」、「共感」といった福祉の心に通じる意味も持ち合わせています。

気動車キハ605 動態保存へ！！

コンテナのアオキ西側に設置してある気動車キハ605は、昭和26年に製造され、キハ21という形式で、常磐炭礦（のちのスパリゾートハワイアンズの運営会社常磐興産株）の炭鉱夫専用車両として活躍しました。その後、岡山臨港鐵道から紀州鐵道を経て富山県伏木ヤードに移り、一部補修され、昨年、かみなり村に見参。

コロナ禍の中、鉄道ファンの方々のご支援により少しずつ修繕をしてきましたが、この度、長年にわたり石川県小松市で鉄道関連の保存活動をされている「なつかしの尾小屋鐵道を守る会」の坂井代表と出会い、キハ605の動態保存（エンジン稼働により気動車を動かすこと）にむけて整備をして頂くことになりました。それに伴い線路の延長工事が始まります（ほんの14mですが・・・）。敷地内へは、これまでどおり入れますが、線路を敷いた箇所は最徐行で通行頂きますようお願いいたします。

石川県小松市にある「ポッポ汽車展示館」の気動車キハ3



左：坂井代表